

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

ただいま議長より登壇の許可をいただきましたので、これより3番上田雄一の一般質問をさせていただきます。

本日の最終バッターということで、先ほど来、22番から24番までの重鎮の大先輩議員たちの質問が行われまして、いきなり若輩者の私の質問ということで、市民の皆さんも含め、大変お聞き苦しい点があるかと思えますけれども、最後までお付き合いのほうをよろしく願います。

（全般モニター使用）それでは、今回、武雄市の今後の方向性についてということで質問をさせていただきます。

大きく大項目としては2つ、教育について、そして、まちづくりについてというところで、その大きな項目をちょっと中项目的に分けると、こういう感じになるのかなというような感じであります。ただ、これに載っていないようなところまでいろんなところに飛び火してまいりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、早速入りたいと思えますけれども、その前に、昨日の質問の中でBMXが出てまいりました。これは私も以前から着目しておりまして、いろいろと調べておりました。これは昨年でしたか、福祉文教常任委員会で実は現地に視察に行っているんですよ。（発言する者あり）はい。これが秩父のサイクルシティというテーマで埼玉県秩父市ですね。これはダムの原石山プラント跡地の広場の有効活用を考えられて、ここに至ったというような経緯でありまして、平成21年の7月に建設工事に着手され、同11月に完成している。11月22日に第1回秩父市長杯のBMX大会を開催されているというところであります。

ここで特筆すべきは、東海大——東海大やったと思います。東洋大やったかもわかりません。すみません、ちょっとはつきり大学の名前は覚えておりませんが、オリンピックを目指しているようなプロライダーの高山氏を雇用されて、コースの管理、技術指導、大会運営まであらゆる面のサポートを彼が担ってやっているというところで、これは実際デモンストレーションを見せていただきました。本当にさすがオリンピックを目指しているというだけであっての実力と腕前でございました。残念ながら、ちょっときょう写真がないんですけど、誰か一人体験しろということで、一番若かおまえが行ってこいという皆さんの御支持をいただきまして私もやったんですけど、本当に怖いです。もう壁にぶつかっていくような状況で、斜面がですね。ただ転ばなくて、けがをしなくてよかったなというところでありますけど、ほとんど自転車こがなくていいですよ。このオリンピックを目指している高山選手は、もう全く全部勢いで斜面を駆け上がって、おけるスピードで次の斜面を越えていくというような感じで、本当に何もペダルをこいでいないというような状況です。

聞くところによりますと、これ小さい写真はそのときの研修を受けているところの写真であるんですけど、ストライダーというような感じで、これは一般の大人の人がやっているサ

イズなんですけど、それよりもっとちっちゃくて、子どもたちができるような施設、この会場のちょっと横のところに小さい会場があったんですけど、そこで5歳児からやっているというところなんです。指定管理委託料は年間およそ200万円程度で、300名を越す大会になっている。もうここはかなりの山奥で、移動でもかなり何時間もかかるような場所だったんですけど。

これはもう本当に佐賀県はおろか、九州にないこういう施設というのはもうぜひというところで私もいろいろと調べておりましたので、武雄でできるということになれば、本当にいいことじゃないかなと思っています。恐らくこの指導者、この高山さんにかかわるところは私は今のところ考えるに、選手会のOBの皆さん、きょう、記事にもちょっと載っていましたが、そういった人たちが協力いただければ本当にいいんじゃないかな。ただ、そういう人がいないと、逆に回らないような施設じゃないかなというところまで思っておりますので、頑張ってくださいたいなと思っています。

それでは、早速質問に入りたいと思います。

まず、教育について、これは県立の中学校、青陵中と、あともう1つは致遠館でしたかね、県立の2中が募集の人数を、すみません、これ小さくて見にくいんですけども、定数に変更されるというところなんです。これはさきの議会でも私も触れさせていただきました。さきの6月議会にもやらせていただきましたけど、これを受けて、高校教育改革プロジェクト会議の検証結果というのが出ておまして、中学入試の競争率は2倍から3倍程度、武雄に限って言えば2.何倍という数字になります。一方、武雄高校というのは2年連続で定員割れというのを受けての話になります。その記事がここに赤く塗り潰しているところなんですけど、見にくいので大きくすると、併設中以外から高校に入学する外進生と併設中からの内進生が一緒になることについて、学習面や生活面で不安を感じるとすると分析されたということがあります。もう当たり前の話だと思います。

そういうところで、この制度の弊害じゃないかなというところもちょっと感じるころはあるんですけども、それを受けて、県教委、それを受けて、内進生と外進生が同じ割合が望ましいと判断すること自体が、これが私はちょっとわからないんですよ。この内進生、外進生、一緒になることで不安がある、学習面や生活面で不安がある、だったら、内進生と外進生が同じ割合が望ましいと、これがようわからんとですよ。それで、これを踏まえて、県教委の教育政策課のコメントでしたかね、「一つの集団に外から新たに入るには心理的ハードルが高い。母数が少ないとその不安や懸念も強い。母数が同数になれば、ハードルがぐっと下がり、互いに鍛え合い、活性化にもつながる」と、私には全く意味がわかりません。

〔市長「僕もわかりません」〕

これを踏まえて、この記事を見て、教育長の見解を6月議会でも伺いましたけれども、改めてお伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

これにつきましては、この前に、例えば、今年度の中学3年生552名が、今、小学校1年生の段階で451名と、約100名ぐらいずっと減少していくという、この児童・生徒数の減少というのがどうしても前提にあると思います。

その上で、来年度から1学級減という方向が出されたわけでありまして。話にありましたように、学習面や生活面でうまくいっていないと、不安を感じるというところでの話が出ております。そうしますと、結果的に武雄高校の場合であると、3クラスと3クラスと、6クラスの学年というのがあるようになるわけでありまして。そこの突っ込んだ理由というのは、私も伺っておりませんが、わかりにくい内容であるということには間違いのないと思います。

また、この点につきましては、1年で出る結果でもないわけでありまして、今後もまた話等をしながら進めていきたいというふうに、対応していきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

なかなか言いづらい部分があるのかなというところが気にはなりますけれども、これももう私から言わすすぎ、これももう井勘定としか見えんとですよ。もう何か一人一人の個性云々関係なく、もう団体、団体、内進組、外進組、団体で競わせるというような感じだけにしか見えんとですよ。これはもうそれはそれでちょっと置いといて、武雄市の子どもたちに対する影響というのはまた大きく変わってくるわけですよ。これももう以前ちょっと使いました分布図ですね。校区で見ているこの分布図ですよ。これは前回も言いましたけど、この武雄市が含まれている西部学区は、よその学区に比べると圧倒的に面積が広いわけでありまして、そのほぼ中心に位置している武雄市ではあります。

これが以前も紹介しましたがけれども、一番下のこの武雄青陵ですね、160人。これまで160人の定数に対して350人、360人、368人という受験者数がある。この数が行きたいという子どもが、受験をしたいという子どもの数ですよ。一方で、これですね、平成24年度160だったのが、これが今度120になってしまうと。今度、一回戻りますけど、さらにここで狭き門になってくるわけですよ、中学受験の子どもに対する。

ここでちょっと気になるのが、今までこれですよ、武雄高校、青陵中学校が定数280名に対して、青陵中学校では40人の4クラスで160人、武雄高校は3クラスで120人の募集が合計で280人が武雄高校というような位置づけだったのが、これちょっと受験者の数ですね。

内進組は360人、この160人に対して360人受けたい、行きたい。一方、外進組の120名、新たに武雄高校を受験する組は120名になっていないんですよ、2年連続で。定数割れですよ。0.9何倍ぐらいですよ。それを今回、県教委の発表でいけば、内進組も120人にとすると、360人ばさらにハードルを上げる。外進組は120になつたらんとに120人。しかも、ここで特筆すべきは、最終的にはこの武雄に唯一1校しかない高校の定数自体も1クラス減ですよ。これ物すごく私納得いかないんですけど、これ武雄市の子どもたちに対する影響というのをどのように見られているか、教育長の見解を改めてお伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

現状としまして、5割から6割の間が青陵中入学生、あるいは武雄高校入学生の市内からの子どもたちであります。そうしますと、40名1学級減りますと、大体二十数名の市内の青陵中への進学者が減るという形になるわけです。

議員御承知のとおり、これと並行して減少期対策の審議会がこの前まであっておりまして、高校生の数が圧倒的に減っていく中で、どれくらいの規模の高校が望ましいかという審議の答申が出ております。これがこのことと連動して、その高校の配置等まで含めて、委員会内でも話題として考えていかなければいけないことというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

そうなんですよ。子どもの数というのが減っているというのは当然私も認識しています。ただ、この240人、武雄市の1学年の人数が240どころじゃないんですよ。結局、ここしかないから行けないから、よそを受けないといけないというような流れで、もうたくさんの子どもが、今、武雄の子どもはよそに、武雄市外の高校に物すごくいっぱい通っているわけですよ。本当にですね。

今、先ほどちょっと教育長が触れられましたので、ちょっと次に入りますけれども、これは県内の高校の分布図です。武雄市内はこの武雄高校だけですよ。同様の中高一貫は鳥栖高校がここにあります。ここの鳥栖高校へ行きたい子も、これちょっと小さくて見にくいですが、ここに行かない子は三養基高校だったり、神埼高校だったり、もう普通に電車1本で行けるわけですよ。武雄から有工に行くような感じですよ。杵島商業に行くような感じです。それから、唐津地区、また、佐賀地区はもう近隣にいっぱいほかの高校がありますから、それはいいんですけど、武雄だけ物すごく不利益をこうむっているようにしか見えないんですよ。

〔市長「多久もばい」〕

いや、多久は人口に対して物すごい——1校ですよ、多久も1校、武雄も1校。でも、人口が、これはちょっと古いですよ、平成20年のデータで毎回私がこれで使っているデータなんですけど、5万1,000人に対して、高校は武雄は1校しかないよ。多久も1校しかないけど、多久は人口は2万2,000人ぐらいですもんね。だから、1校に対する人口割で見ると、ほかの10市と比べると、もう倍以上差があるわけですよ。仮に武雄がもう1校公立高校があったと仮定して2万5,000人。これでも佐賀市に次いで2位ですよ、これでも。もう1校、私立まで入れるとすれば、仮に武雄に1校あったとすれば、1万7,000人。これでようやく県内の中間ぐらいです。

そういうちょっと状況を踏まえて、この記事ですよ。先ほど教育長触れられましたけど、この生徒減少期対策で、これ佐賀新聞の記事になるんですけど、「高校4～8学級が適正。3学級以下は再編対象」という記事が出ております。これをよく見ると、これも6月議会か、3月議会かでちょっと触れましたけど、学校の専門性や特殊性、地域の実情など特段の事情があれば、3学級での存続も認めるとしたというような感じですよ。だから、一向に私が1回、県の審議会、傍聴に行ったんですけど、そのときの内容とさほど変わりはないのかなど。

ただし、ここで、ここですね、ちょっとこれも小さいですので、読みますけれども、「川崎教育長は「次期再編計画はシビアな内容になる。答申の趣旨を尊重し、教育委員会だけでなく、広く関係者の意見を聞いて策定したい」というようなコメントが載っております。

ここでちょっとお尋ねをします。こういう武雄市の教育環境の中で、広く関係者の意見を聞いて策定したいというようなことですが、教育長、武雄市の教育長としてコメントをここで求められるとすれば、どのような答えになりますか。答弁願いたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

次の答申を受けて、県の教育委員会が再編計画を作成されるだろうと思います。それまでに何ができるかということかというふうに思います。ただ、その前提としましても、この答申では、普通高校はもう全県1区というような案まで出ているんですね。そうしたときに、例えば、武雄から佐賀まで通う人でもいるんだろうかというようなこともまた話題になってこようかと思います。絶対数が足る中で、ほかの地区にある高校が、うちの高校は閉じて武雄に譲ってもいいですよという意見は出てこないだろうというふうに思われます。そこが前回、非常に微妙な問題と言ったところでもあったわけですが、ただ、これは市民の皆さんのお考え、御意見をこの半年間は特にしっかりお聞きして、そして、武雄市として言うべきことは言っていないと、次の再編などというのはもう恐らく遠い将来だというふうに思います。

ただ、これはなかなか理解してもらえません。つまり、これまでの教育行政的な流れの中

で、それぞれの地区が一生懸命して高校を誘致されてあるわけですし、伝統があるわけですね。これまでもいろんないきさつ、経過等を聞いてきたわけですがけれども、非常に難しいということはもう現実でございます。

ただ、その中で武雄市として意思表示をしていく必要はあるというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

ちょっと先ほどの図に戻しますが、私はぜひちょっとお願いしたいんですけど、これは私のあくまでも個人的な見解ですがけれども、今の青陵中、武雄高校、これをやっぱり私はもう一緒にして、そこだけでやってくれよと、もう中高一貫をそのまま、さっきの内進組、外進組を一緒にするから不安があるというんだったら、もう全部一緒にせよって。内進組が全て武雄高校に行くようにして、で、新たにやっぱり今、青陵中学校で使っている校舎を活用してでも、総合学科なりなんなりでもいいですよ、県立高校をやっぱり武雄にもっと考えてくれんやという声が私は今の子どもを持つ保護者の最大の望みだと思っておりますけれども、これについて答弁をお願いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

今の状況で一番考えられる案かなという気もいたします。そういう意見も聞いてきております。ただ、同様な考え方というのは青陵高校なくなるころの話としては幾らかあったやに聞いております。そういう中で、恐らくほかの考え方をされる方もおられましょうし、早急に市民の皆さんの御意見を聞いて、可能な線を探っていくということをしていかなければいけないと思います。

ここ数年間も、通学時間とか、通学の旅費とか、通学費用とか、いろんな調査等も含めて調査等もしてきておりますので、そういうことをもとにいろんな方の意見を聞いて対応していきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私は上田議員のおっしゃることに賛成です。ですので、これについては市長会等で私からも言ってまいります。賛成です。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

はい、ありがとうございます。ぜひその声をやっぱり武雄から上げていかんといかんわけですよ。武雄の子どもたちのために私たちが何ができるかというところをやっていきたいと思っておりますので、ぜひよろしくをお願いします。

〔市長「賛成」〕

続きまして、いじめに入りたいと思います。ちょっといじめ問題。

先ほど来からずっといろいろ出ております。きょうも、これ新聞に出ていましたもんね。もうこの数。この数ですね。もうけさの新聞、佐賀新聞さん、私、佐賀新聞で確認したんですけど、この数ですね。もう皆さんおわかりでしょう。だから、あんまりあえてその説明はしたくないです、私も。これに対して、この数ですよ。この4という数。原因がいじめだと断定された数らしいです。

私たちの仕事というのは、この200という数をつくらないことですよね。下げること、ゼロに持っていくことじゃないかなと思っています。そういう中で、教育長、武雄市の今の現状を改めてちょっとお伺いします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

マスコミ報道等を見ましても、最近、いじめを原因とした自殺等のニュースが頻繁についているわけでございます。市内にはそういう子どもたちはいないと思っておりますけれども、保護者の方含めて、いざといったときにはここに電話してくださいというのがありますので、あしたちょっと画面でもお知らせしたいと思っておりますが、23-0110、これがヤングテレホンということで23-0110。それから、普通の電話相談として、22-4989、この2つにつきましては、いじめを含め、いろんな相談に対応できるという体制をしております。緊急の場合、何らかの形で安心につながればということで、まず、お知らせ、あしたまた正式にお知らせしたいというふうに思います。

これまでも議員さんのほうからこのいじめにつきましては、あしたまで含めて御質問をいただいているわけで、その重みというか、大事さというか、非常に痛感しているわけです。

これまで、特に大津のことがあってから、学校につきましても緊急の調査もしましたし、対応もしているわけでございます。報告としましては、今年度は1件、非常に時間をかけて対応したということあるわけですが、今、こうして各学校の対応を見ましても、非常に丁寧な対応をしてもらっているなということは思っております。ただしかし、子どもたちのことでありまして、学校で把握していないということも当然あるわけでありまして、より注意深く観察し、早期発見、早期対応と、そして、そのいじめが起こらないための指導として何ができるかですね。そのあたりについて、さらに対応をしていきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

そうですね。ちょっと先のほうまでの答弁をいただいたような感じもするんですけど、これ教育委員会で使っている報告書のフォーマットです。ただ、残念ながら、平成23年度のいじめの件数というのは武雄市においてはゼロ件と。ゼロ件ということは、この報告書は何も使われなかったということですよね。ただでも、やはり私の耳に入ってくるのは、いろんな話を聞くわけですよ。やっぱり今、この武雄でどうしても必要なものというのは、見逃さない取り組みじゃないかなと思うわけですね、やっぱり。あっているのはあっているというふうに見ながら、見逃さない。大津の場合は、見ていたり、逆に一緒に笑っていたりとか、もうふざけたような話でありましたけど、武雄にとってはもうとにかくやはり見逃さない取り組みというのが大事になってくるんじゃないかなと思っています。その見逃さない取り組みについて、この報告書がゼロなので、やはりこれが上がってきたら、また、上がってきたら上がってきたであれなんでしょうけど、やはり苦しんでいる子どもを見逃さない取り組みというのが武雄はどのような取り組みをしているか、答弁をお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

具体的な例を一、二御紹介しますと、やっぱり複数の目で見ることができないかということですね。先生方も担任の先生だけじゃなくて、あの子は大丈夫かなというような複数の目で見するために、そういう会合を、連絡会をもう定期的に位置づけていると、あっても、なくても位置づけているとかですね。あるいはアンケートはこの前も申しておりますけれども、最近はいろんなアンケートを工夫されたのがあります。それから、やっぱり担任の先生がよく接していますとね、何か顔色変だなと、ちょっとえらい元気がないねというのは、先生気づくわけでありまして。そこがもう一番はスタートだというふうに思っておりますけれども。

それと、子どもたち同士で心配なこと、気になること、気づいたこと、そういうこともアンケートという正式な形じゃなくても、毎日の生活の中で出し合える関係をつくっていく。ただ、中学生となりますと、それもなかなか表では出しにくいこともあるわけでありまして、相談的な時間も全員、短時間でもいいからと、年に何回かはとると。いろんな事前の把握のための対応もしてもらっているというような状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

先ほどまでの質問等にも出てきておったかと思っておりますけれども、私、これを今回ここに出

したのも、一つの抑止力を願って出しているところなんです。やはり学校だけ、地域だけというわけにはいかない、家庭も、やっぱりみんなでこのいじめというのをなくしていく方向にしないといけない。これをよく見ると、学校から教育委員会だったり、教育事務所だったり、県教委だったりというようなところに行くような感じの報告書になっています。だから、ぜひみんな、これをごらんになられている市民の皆さんもそうなんですけど、我が子に絶対いじめだけはしたらいかんぞというような指導をやっぱり家庭でもせんといかんちゃんかかなというふうに思っております。

その抑止力の一つで、これも新聞記事から抜粋ですけども、専門家の組織設置へと。これは今度、逆に、記事を見ている限りにおいては、どちらかというところなんですけど、これには多久市がいじめ等問題行動対策委員会設置条例が今9月議会に上程されていると伺っておりますし、嬉野においても専門チーム設置に係る予算を今議会に上程されているというふうに伺っております。こちらの両市の取り組みが中身まで把握されているのか、それと、武雄市も同様にこのようなことを考えているのか、これをあわせてお伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

両方じゃありませんけれども、教育長さんと直接立ち話程度ですけども、話したことがあるわけです。

新聞のほうでも書いてあったと思うんですけども、抑止力としての役割ということがやっぱり第一かなというふうな気がいたします。それから、やっぱりいじめても非常にこじれた場合には、学校にとっても非常に時間をとられてみたり、精神的に大変な苦勞を伴うわけでありまして。そういう面での安心感というのは確かにあろうかなというふうに思っております。

ただ、その年間の回数とか、どういう活動にするかということは、やっぱりそれぞれ県外のこういう同様のあれにつきましてもいろんな対応の形あるわけでありまして、今のところ、学校の状況を見まして、武雄市では当面考えておりません。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

実は私もそう思っていたんですよ。問題を解決する側のほうをあんまりつくっても、もう武雄も既にいろんな育友会も中心になったり、学校評議員さんもあったりと、ちょっとほかの次の話題に入りますからあれですけど、もうそれで学校の現場がまず動きにくくなるだけやなかなかなというのもちょっと気にしているところです。

次に入りますけど、コミュニティ・スクール、これ今議会の教育長の報告に出ておりましたコミュニティ・スクールですね。学校運営協議会制度というようなところになります。これについて具体的な中身をお伺いしたいと思います。答弁をお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

コミュニティ・スクールにつきましては、今年度から北方中学校のほうで取り組んでいただいております。学校運営協議会制度という形で日本名はなっております。

目的は、学校と保護者の方、地域の方一体となって、地域とともにある学校づくりということを目指すものであります。これまでも学校評議委員会とかあったわけでありましてけれども、それよりもより広範囲に、例えば、学校運営の基本方針とか、教育活動等について、その評価的なことじゃなくて、そういう全体的な基本的な方針等についてもより密接にかかわっていただいて、意見もお聞きしてということで、全国的に取り組まれていることでございます。その保護者の方や地域の皆さんの意見を学校運営によりよく反映させていくということで進めてもらっております。

計画を立ててもらって8月に第1回の運営協議会を開きまして、13名の方に運営委員をお願いして進めているところでございます。

より地域と一体となった学校が展開できるのではないかとというふうに期待しております。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

じゃ、その北方中学校13名の委員でということでありましたけど、13名、どのような方がメンバーとして入られているのか、答弁できますか。お願いします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

つぶさにはちょっと表を持ってきておりませんが、PTAの代表の方、それから、区長会の代表の方、それから、もちろん保護者の方、それから、もちろん学校、それから、教育委員会も入っております。そういうことで、地域の方が各いろんな団体等から入っていただいているということでございます。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

これ私もちょっとコミュニティ・スクール調べてみたんですよ。ちょっと文部科学省のほ

うで出ている、これイメージ図になります。ちょっと、これ見ても、あんまりわかりにくか
とですよ。学校運営協議会はどのようなことができるんですかということ書いてあります
けど、これもちょっと、今ちょっと説明いただいた分ですけど、一番気になるのは、学校運
営協議会と学校評議員、また、PTAとの違いは何ですかということになってくるんじゃ
ないかなと思うわけですよ。

これも文部科学省のホームページからちょっと抜粋したものなんですけど、ちょっと字が
小さくて見づらいので、学校運営協議会は合議制の機関であって、法律に基づき学校運営と
か、もうるる書いてあります。結局、ここに書いてあることは、校長先生は学校運営協議会
が承認する方針、校長先生が学校の運営方針をつくって運営協議会が承認してくださいよ、
で、学校はその方針に従って学校の運営をするということが書いてあります。当たり前のこ
とです。

次が、学校評議員についてのことが書いてありまして、学校評議員は校長の求めに応じて
学校運営に関する個人的意見を述べるもので、直接的関与や決定権はない、学校評議員、こ
れもそうですよね。これも従来のもまだと思います。

学校運営協議会は学校運営や教職員人事について関与する一定の権限を有する合議制の機
関と書いてあります。これはちょっと飛ばします。

次に行って、PTAとは学校と家庭、地域とをつなぎ、学校の教育活動に協力を行うもの
となっています。これも当たり前の話です。

最後に、下のところに書いてあったのが、PTAの役員さんが学校運営協議会の委員に入
り、PTAの意向を反映したり、学校運営協議会がPTAに協力を求めて、互いに補完し、
学校、家庭、地域の一層の連携強化を図るものというふうになっておりますけれども、私が
ちょっとここで1点だけ気になるのは、このここですよ、学校運営協議会は学校運営、教
職員人事について関与する一定の権限を有する合議制の機関というふうになっています。
学校運営協議会が学校運営は当然ながら、教職員人事についてまで関与する一定の権限を持つ。
あくまでも合議制とか書いてありますが、そのメンバーを聞いていると、地域の人たちか
らいろいろいらっしゃると思います。ただ、教職員人事にまで口出しされるんですか。され
ると、あんまりちょっと。私も現場としてはこれほどやりにくかものはなかつちやなか
なというちょっと危惧があるものですから、これについて答弁をお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

学校運営協議会でコミュニティ・スクールが話題になりますときに、一番の話題になるの
は、ここの項目でございます。実際に県内数校されていますけれども、ここについては今、
例えば、校長がかなりヒアリングの形で、先生方の日ごろの学校経営の思いから、個人的な

勤務上の状況から、非常につぶさに聞いてあるわけです。そして、経営をされているので、ここまで人事について運営協議会から意見をしっかり聞いて、それに対応するという、そこまではされていないのが現状じゃないかなと。もちろん校長の経営、協議会の中であった話題であったり、経営上の人事面での要望等についてはもちろんしっかり聞いていると思えますけれども、現実はそのようなことかなというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

文部科学省のホームページ見ていただければわかりますけど、県内の取り組んでいる学校がもう一覧で出ています。ほとんど県内は新規で指定をされているようなところがありますので、これからになってくるのかなと、中身が見えてくる、運営の仕方次第かなというところですね。ただ、このコミュニティ・スクール制度というのは、平成28年度までの5カ年間の分ですよ。5カ年での、期限付きの制度と。民主党政権が全国で3,000程度設置を目指しているというように伺っております。ただ、今、設置されているのが1,000ちょっとぐらいというところがありますから、教育委員会として、また学校として、子どもたちにとってが一番になってくるかと思えますけど、これがメリットがあるんだったら、それはそれで私もどんどん推進していただきたいと思えますけど、今回、北方中学校が市内で初めて指定されたということで、今後、市内学校、取り組んでいく、もっとどんどんどんどん推進していくつもりなのか、とりあえず北方中で一旦モデルケースとなっただいての状況を見てなのか、そこら辺、構想があれば答弁願います。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

スタートしたのが平成17年度でございます。今年度やっておりますのが1,183校と、全国です。そういう状況でございます。スタートしてから考えておりましたのは、非常に今、市内の小・中学校、地域の協力を非常にたくさん得ているわけでありまして、そういう面でこういう制度的なものを研究的にでも取り入れてやったほうがいいのか、今の形でPTAを中心にして協力していただく形でも十分ではないかなという、そういう思いがありながら、一つこの取り組みをする中で、普通の形プラス何かが見えてくるんじゃないかということをお願いをしたところでございます。

特に北方町の場合に、小学校等においても非常に地域との連携を厚くしていただいておりますので、その面で小学校、中学校一緒をお願いしたいかという、そのあたりもちょっと検討したんですけれども、ちょっとすみません、長くなって、よその地区での実践を見たときに、中学生がもっと地域で役立つのではないかという活動が非常に地域の方もつな

がりを持って、ありがたく見ておられた、そして、生徒にとっても非常に自信を持つ場になっていたと、そういう実践例を多く見てまいりましたので、現在も北方中もそういう場を工夫してもらっているようではありますが、そのあたりも強く期待しながらお願いをしたところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

ぜひ現場の学校がスムーズに運営がいくような形でちょっとお願いをしておきたいと思えます。

続きまして、ちょっと明るい話題を。

日本宇宙少年団武雄分団、これもう皆さん御存じだと思います。日本水ロケットコンテスト2012において、九州ブロックの大会を優勝されたというようなところなんです。これはもうケブルワンさんでもニュースでも流れておりました。今回、九州ブロック代表ということで全国大会に神奈川県相模原市に行かれるということなんですけど、この水ロケットコンテスト2012の大体の中身と、あと1点だけ確認をしておきたいんですけど、あくまでもこれ水ロケットコンテスト2012九州ブロックの代表として全国大会に行かれるわけです。それが武雄分団がということで。その全国大会出場等々の人づくり、まちづくりですかね、補助金等々があったかと思えますけど、その要綱に該当するのかなど、そこまであわせて答弁願いたいと思えます。

○議長（杉原豊喜君）

白濱教育部理事

○白濱教育部理事〔登壇〕

（モニター使用）すみません。日本宇宙少年団の武雄分団というのが、今お話のように、今度、九州大会で優勝したわけでございますけれども、平成11年に佐賀大学教授の新井康平先生が分団長ということで発足されて、毎月いろんな活動をされています。その中の1つが水ロケットということで、団員が今、小学校1年生から中学校3年生まで22名いらっしゃいます。水ロケットコンテストは、ここに書いておるように、4月21日から22日までということで鹿児島県の霧島市で開催をされています。九州各地区よりそれぞれ予選会がありまして、9分団ということで1チーム2名ということで参加をされて、佐賀県が武雄ということで参加をされています。これは催しですけど、それで、競技はペットボトルでつくった水ロケットで60メートル先の目標物に発射をして、2回競技をやって、そのうち目標物の着地点に近いほうが良いということで競技がなされています。団体優勝ということで、1回目が16.58、2回目が24.54ということで、武雄分団のほうが団体優勝、そして、個人優勝もありまして、デザインのほうも優勝しているということであります。

これを受けまして、全国大会というのが来る今度の土、日ですけど、9月15、16日に神奈川県相模原市のほうで開催をされるようになりまして、全国12ブロックということで九州地区の代表として武雄チームが参加をするということでございます。全国大会の旅費、宿泊費については、今、御指摘のように、武雄市の人づくり・まちづくり事業補助金を活用させていただくということにしております。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

はい、ありがとうございます。本当に喜ばしいことですよ。こういった活動、宇宙少年団のような活動もそうですし、スポーツでもそうですし、やはり地区を勝ち上がって全国大会へ行くという、この経験って物すごく大事なものですよね。ですから、ぜひ応援していただきたいなど。

これあれでしょう、全国大会行くときは武雄分団という名前で行くとでしょう。白濱さん。

〔教育部理事「そうです」〕

そうですね。やっぱりさっきのザ・スパ武雄とも一緒に、武雄の名前を全国に発信してくれるというのは物すごくありがたいことなので、もうぜひこれを今後も応援していただければなと思っております。

続きまして、図書館についてであります。

図書館については、先ほども話出ていたかと思えます。指定管理者の導入によって、具体的な中身というのは私6月議会でも大分質問をさせていただきまして、中身は理解できたように思っておるんですけども、そこから変わった状況といいますか、新たに進んだことでスターバックスが出店が決まったということであります。それを踏まえて、そういうことからいろいろ今後本格的な工事ということで、11月から工事に入って、3月いっぱい閉める。閉館しながらの対応。そこら辺をもう一度スケジュール的な面と対応というところをあわせて答弁をお願いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

すみません、画面で説明をさせていただきたいと思えます。

（モニター使用）11月1日から来年の3月31日まで5カ月間につきましては休館をさせていただきたいということで、先ほど御説明をさせていただきました。中ほどに臨時児童図書コーナーという開設をいたしますけれども、上から4番目ですね、11月15日から2月28日までということで、場所につきましては文化会館のラウンジで開設を予定いたしております。これにつきましては、先ほど市長から話ございましたけれども、児童以外につきましては何

らかの方策がとれないかということで検討を進めてまいりたいというふうに考えておるところでございます。

それから、今議会に追加で工事等の施設の改修の予算をお願いしたいというふうに考えております。それで、工事には11月の中旬ぐらいからかかりまして、2月いっぱいぐらいかかるだろうというふうに思っております。家具、什器類の搬入につきましては、来年の2月ぐらいになるということになります。

現在、図書があるわけですが、これにつきましては、移動が必要だと。工事がありますので、移動が必要になってまいります。これにつきましては11月から図書の移動を始めまして、先ほども申し上げました上から5番目ですか、タグを張りついたり、こういった業務をいたしまして、後に来年3月には図書の今度は搬入を始めたいというふうに考えております。ジャンル分けのシール張り、そういったものも含めまして作業がずっとありまして、来年の4月1日にはCCCの運営による武雄市立の図書館が新たにオープンをするという段取りになっております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

ちょっとこのままにしておいてください。この辺の、最初からこのスケジュール表を出していただければ、今までの答弁も大分わかりやすかったっちゃなかかなという気はしているんですけど。

一番ひっかかるのはやっぱり工事があっている間の、一般の人は車での移動手段等持っておられる方はいいと思いますけど、やっぱりここですよ、児童図書、11月15日から2月28日までが臨時の児童図書コーナーを文化会館に設置するということですね。であれば、私が知っている子どもたちのたかさんの大半は、図書館を一番利用しているのは夏休み、冬休み、春休みなんですよ。宿題の中でも一番苦になっとるのは読書感想文というのをよく耳にします。それで、我が子も大変なことになっております、毎回。これでいくと、12月の冬休みは十分かなと思うんですけど、春休み、対応、なかなか難しいのかなというのがちょっと気になっております。ただ、4万冊の児童図書から1万冊をやっていただくということですので、これはこれで非常にいいことだと思いますので、ぜひやっていただきたいなと思っております。

そうすると、今度は家庭教育での読むということですよ。そこにちょっと入りたいと思いますけど、家読って、最近ちらほら耳にするような言葉になってまいりました。実際、今、学校でもいろいろ取り組まれておるようです。この家読を耳にすることになって、やはりこの家読推進プロジェクト公式ホームページというのを、やはり情報収集で一番このホームペ

ージを見たところ、ここにずっと各自治体、教育委員会の取り組みとかがずっとあってありますよ。これをずっと見ていたら、あったんですよ、武雄市も、ここに。佐賀県武雄市図書館の取り組みとして、ずるっとメニューがあって、武雄も頑張っているなと思ってますけど、武雄も頑張っているなで、よそは教育委員会とか、ずうっと書いてあるんですけど、武雄のここに載っているのは、武雄市図書館の取り組みというふうになっているわけですよ。ちょっとこの家読についての武雄市の取り組みと、あとこれは図書館の指定管理者後の子ども司書講座とか、さまざまなメニューがこのまま継続されるのかどうなのか。今までの説明からされると、私は当然継続されるものだと思ってますが、これについて答弁をお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

現在、子どもたちに対しまして図書館で行っております業務につきましては、そのまま継続をしたいということで考えております。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

子どもたちの現在の、例えば、読書への親しみの状況でございますが、一番最近わかったので、市内の小学生が1年間に150.5冊読んでいますと、平均してですね、非常に膨大な数であります、これは県内の平均が111.2冊ぐらいですから、40冊ぐらい非常によく読んでいます。ただ、中学生は県が22.0冊に対して、武雄市内の生徒は17.4冊と。工事中であったり、いろんなこと。ただ、部活動はどこの中学生もやるわけありますので、その面では——もちろん冊数だけを問題にしているわけではありませんけれども、一番わかりやすい数値として、そういう状況がございます。

家読につきましては、家庭読書の「家」と読書の「読」で家読と呼んでいるわけですが、家族触れ合い読書というコミュニケーションをとると、きずなづくりを最大の狙いにしていくというふうに思っております。読書でありますので、効果としてはもちろん学力面への期待もあるわけですが、まずはきずなづくり、コミュニケーションづくりではないかなと。

これは市内の校長会等の折には、山内町で前からされている立腰教育ですね。腰骨を立てようという非常に主体性を求める立腰教育とこの家読については、学校において取り組める範囲でとにかくやってみよう。朝読書とかは全部の学校やっておりますので、名前がこれの家読でやるかどうかというのは別にしまして、読書の機会として進めているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ちょっと私、以前、もう読書感想文廃止というふうに言ったんですよね。教育委員会には。読書感想文が好きな人は書けばいいですよ。もう幾らでも。でも、さっき政策部長とも話しましたが、親が書きようですたい、低学年とかね。（笑い声）それで、読書感想文がある限り、本読む気せんですよ。ほんと。もうね。子どもには伸び伸び読ませる、あるいは親と一緒に読むと、それが基本です。読書感想文は武雄市は廃止します。（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

読書感想文、廃止になるぞ、うちの仕事も大分減りますから、それはそれで喜ばしいことなんですけど、（「廃止」と呼ぶ者あり）その本の冊数のデータですね。これは学校で結構みんな競ってあるわけですよ。うちなんかと言うぎいかんですけど、誰とは言いませんけど、借りてくるだけという人も中にはおるわけですよ。そこんたいがほんに難しいなと思うところであってですね。その中で、家読推進プロジェクトが発端なのかどうなのかはわかりませんが、今、うちの子どもが行っている学校で実施しているのはリレー家読ですね。リレー家読というのをやっています。要は、同じ本を一人一人がずうっとリレーして借りていってというような。これはさすがに読まんで返すわけにはいかんとやなかかなと思うたら、残念ながら予想が的中してそのまま返ったような感じがしたとですけど、この取り組みは私非常にいいなと思っていますので、これはぜひ武雄市内でもずっと広げていっていただきたいなと思っています。

それでは、次に入りたいと思います。

教育の最後ですね。メロディー、サイレンによるお知らせ、これ何のことかなと思うかもわかりませんが、以前、武雄市は朝の8時、正午、それから、これは冬時間、夏時間の違いもあったかと思いますが、5時、もしくは6時ですよ。夜の9時にサイレンが鳴っていたと思います。これが市長が就任後、変えたんじゃないかなとちょっと……

〔市長「いえいえ、変えとらんです」〕

そうじゃなかったですかね。メロディーに変わったですよ。サイレンじゃなくて、音楽に変更したほうがいいのかというところで変わったかと思っています。ただ、これで今鳴っているのが朝の8時と正午と夕方の5時。これは私、市民の皆さんからちょっと何件か声をいただいたんですけど、この夜の9時のメロディーを復活してもらえんやろうかと、なしてねという話ばしよったわけですよ。そしたら、なかなか子どもさんが寝ないと。早寝、早起き、朝御飯を推奨しとる上で、もっと早う寝ろ、早う寝ろと言うても、何とかさんは何時まで起

きとる、何とか君は何時まで起きとるとかという話らしいですもんね。これ、いろんな私も知り合いのお母さんたちとちょこちょこ話をしたら、それはよかことよというごたあ意見もあったわけですよ。私はどうかなと思いつながらあったんですけど、そういう意見がやっぱり何件かあったものですから、これについて答弁をお願いします。（「睡眠の妨げになったばい」と呼ぶ者あり）

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

9時になれば、睡眠の妨げになる人たちもいますしね、これなかなかちょっとやっぱり難しく、観光地という側面もありますので、ちょっとここは微妙な問題なんですけれども、ただ、私もその声は聞いています。ですので、これちょっとアンケートをとろうと思って、アンケート。図書館でもアンケートとりました。サイレンでもアンケートをとろうということなので、ちょっとこのアンケートのとり方はうちの中で調整しますけれども、年内にちょっととろうと思いますので、やっぱり市民の皆さんたちの御意向を把握した上で、そこでやるか、やらないかというのは判断をして、そこで議会とまたよく御相談をさせていただきたいと思います。議会はちょっとあっちのほうが反対みたいですね、早う寝んさっけんが。

〔3番「早う寝んさっけんですね」〕

説得してください。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

くれぐれもアンケートをとるのはメロディーのほうですね、サイレンじゃなくて。

〔市長「メロディー」〕

メロディーですよ。

では、次に、まちづくりについて入りたいと思います。

まちづくりについては、大きく分けたら、こういう感じになりますけれども、まず、新幹線の、整備新幹線についてですね。整備新幹線長崎ルートがさきの6月議会閉会後の29日、ついに事業認可を受けました。悲願の事業認可というところでありまして、この事業の概要を改めて確認したいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

北川営業部理事

○北川営業部理事〔登壇〕

ことしの6月29日に西九州ルートの新たな認可がおろされたわけですが、その概要について、主な点についてモニター使いながら御説明したいと思います。

(モニター使用) まず、1点につきましては、これまで九州新幹線武雄温泉－諫早間でしたが、これが武雄温泉－長崎間まで延伸ということでございます。なお、これまではスーパー特急方式で線路が狭い狭軌という形で認可がおりておりましたけれども、今回、長崎まで延長された上にフル規格という標準軌という形での整備になると、なおかつ武雄温泉－長崎間の一括開業ということになります。

2つ目は、認可の日からおおむね10年後の開業というふうなことで、これまで平成30年の開通という目標でございましたが、これが平成34年ということになります。

それから、フリーゲージトレインですが、これの導入ということになります。

4つ目は、JR佐世保線肥前山口－武雄温泉間の複線化がこれまで事業認可されておられませんでしたけれども、今回の新幹線事業の中で取り組みを行うということになります。

モニターのほうでちょっと西九州ルートの全体の概要ですけれども、博多から新鳥栖間までにつきましては延長26キロメートルございます。これにつきましては鹿児島ルートと共用をいたします。

それから、新鳥栖から武雄温泉までにつきましては51キロメートルございますが、これは在来線を通るということで、先ほど申しましたように、肥前山口－武雄温泉間につきましては、新幹線スキームで整備をいたします。

それから、武雄温泉－諫早間につきましては、もう既に着工をしていたこれまでの既着工区間でございますが、延長45キロメートルということでございます。

それから、さらに諫早から長崎間までが今回新たに認可をされました21キロメートル区間でございまして、総延長143キロメートルと、博多－長崎までにつきましては143キロメートルの整備延長というふうなことになりまして、全体事業費は5,000億円ということになっております。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

今るる説明をいただきました。ちょっとこの図を使わせていただければ、要はここからここまでは鹿児島ルートとの共用で、ここからここまでがフリーゲージの狭軌を使うと、武雄温泉から長崎までの区間は標準軌のフル規格のサイズの標準軌になるということですね。

じゃ、ちょっと切りかえてもろうてよかですか。そういうことです。

それに合わせて、今回の事業認可によっては、これ駅から東を見た、違う、駅の南口から東を見たほうですね。これが西を見たほうですね。これは今回の事業認可によってはっきりしたのは、この線路が既存の、従来の線路の南側に張りつくというところも事業認可によってはっきりしたんじゃないかなと思っています。これは西浦交差点に立ったときの市役所方面を見たほうですね。ちょっとざらっとですけど、イメージとしてはこの従来の線路の南側

にこんな感じでまたつくよというような感じになるのかなと勝手に想像しています。ここも逆か、駅のほうを見たところもイメージ的にこんな感じになるかなというような感じなんですけど、いろいろ今、進捗状況等々もあるかと思います。それについて答弁をお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

北川営業部理事

○北川営業部理事〔登壇〕

武雄町の進捗状況ということだと思いますが、新幹線の整備計画では、先ほど議員さん御指摘のように、今、モニターでシミュレーションしていただいていますように、駅を現在の温泉駅の南側に配置をいたします。線路につきましては、現在、高架の側道となっております部分の道路や側道や、あるいは水路の上に参加しますので、その部分の道路、水路のつけかえにより新しく整備をされるというふうなことになります。

あと今現在の8月までの武雄町の状況でございますが、市役所より東側につきましては、小楠、天神、昭和区ですが、現在、道路、河川等の交差協議中ございまして、並行して関係します対象家屋が16戸ほどございます。これにつきましては、今現在、家屋調査並びに土地や建物調査をやっているところでございます。

それから、市役所から西側の松原、武雄、竹下、下西山までにつきましては、設計協議は既に完了をいたしまして、現在、用地交渉をしているところでございます。対象家屋につきましては24件ございますが、既に入収が16件終了をしているというふうなことでございます。

それから、一番西側にあります上西山地区につきましては、ちょうど武雄トンネル、これ1.4キロございますが、現在、設計をいたしている途中でございまして、まだ設計協議には入っておりません。そうしたことで、現在、設計をやっているということでございますが、年内、もしくは年明けには地元と協議に入れるというようなことで聞いております。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

そしたら、先ほど御説明いただいた中でも、今、ずっと設計協議、家屋補償等々の協議が、設計協議がなされているというところですね。

この整備新幹線の長崎ルート、従来、平成30年開業と言っていたのが、その事業認可がおりましたことによって、標準軌の事業認可がおりましたことによって、最終的には現段階では34年開業と4年延びたわけですね。ただ、この4年延びたことがプラスと見るのか、マイナスと見るのかということになってくるのかなと思っています。ちょっとこれ小さくて見づらいので、ちょっと大きくしたような感じのところに行きたいと思います。

上が九州新幹線の鹿児島ルートですね。平成23年に開業しています。これが下が長崎ルートのほうです。昭和47年12月12日に基本計画が策定されました。私が47年の2月生まれなん

で40年前ですね。40年前にやった整備計画、基本計画がようやく平成24年の6月、事業認可がおりましたというところであります。このフル規格というのは、フル規格の標準軌ということでの認可ということになりますけれども、ちょっとここで長野新幹線を見てみたいと思います。北陸新幹線の長野新幹線ですね。これが1987年閣議決定されたのが高崎—小松間をフル規格でということ閣議決定されております。翌年の1988年、当時の運輸省——今、国土交通省ですかね——の発表は財政的な面からいってというような流れで、高崎—軽井沢間がフル規格、軽井沢—長野間をミニ新幹線という、これが運輸省が発表した計画です。そうこうしているうちに1991年、さっきも何かオリンピックの話出ていたかと思います。長野オリンピック、冬季長野オリンピック開催によって、高崎—長野間がフル規格になっています。いいですね。

何が言いたいか……

〔市長「どさくさやろう」〕

いや、偶然なんですけれども。ただ、事業認可がおりたというふうになっても、ちょっと武雄でもそのまま手放しに喜べない状況もあるのはあるんですよ。こういうふうですね。これは北方町の掛橋地区になるですかね。新橋踏切、北方小学校の真南ぐらいのところですね。ここですね。ここが線路です。フリーゲージとなると、ここを新幹線が通っていくのかなというような感じもちょっとするわけですよ。

次、ちょっと行きます。

これは先月、先々月やったですかね、行われました第5回新幹線沿線5市サミット、お偉いさんがいっぱい来ております。ほとんどが市長さんだだと思いますけど。ここでシンポジウム等々ありました。この写真はちょっと小さくて見づらいですけど、沿線5市の首長さんたちですよ。ここ樋渡市長ですね。会場の図。もろもろ。これは新幹線活用プロジェクトがやった会議の総会の模様なんですけど。今現在、佐賀県古川知事はこの原案、事業認可がおりた原案でというような、それ以上のコメントは出されていないかなと思います。

ただ、私、これに出て、つくづく思ったとですよ。私たちよりか、武雄はフリーゲージが通るとなれば、鳥栖で標準軌から狭軌に変わるわけですよ。で、狭軌から、狭軌で入って行って、武雄温泉でまた標準軌に戻ると、そのシステムの変更部分の駅なので、それなりのメリットはあるかなと思うわけですよ、フリーゲージでもですよ。フリーゲージを決して否定しているわけじゃありません。でも、このほかの、もちろん武雄市も一つのそうだと思いますけど、ほかの首長さんたちも思いは一緒じゃないかなと思うのが、やっぱりフル規格……

〔市長「そうです」〕

その声を上げんといかんじゃないかなと。私は先ほどのこの話、この話もありますよ、当然、ずうっと段階的に。鹿児島ルートだってそうですもんね。それがこういう流れを踏まえて、武雄市として、もう事業認可がおりるまではなかなかそれも動けなかったんですけど、

私も言いにくうはあったとですけど、事業認可がおりたので、今から次のアクションにこっちも入らんといかんとやなかかなと思いますけど、これについて答弁をお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

やっぱり古川知事の苦渋の気持ちもわかるとですね。やっぱり県の負担がこれで数千億円ふえるってなあぎ、それはやっぱり県知事としてこれば認めるということはなかなかしんどかっていうことは、知事のお気持ちは弟子の一人としてはそれはよくわかりますよ。ですので、私はフル規格賛成です。ですが、この場合、考えてみたときに、県の利益よりも、恐らくこれ国の利益ですもんね。フル規格になったときに、佐賀県の人たちがどれだけ乗るかよりも、恐らくこのフル規格を通じて関西であるとか、関西が絶対ふえますよね、その国益を考えた場合に、県の負担がふえないことを前提に、僕は国の負担で賄うということが条件であれば、僕はフル規格です。しかも、ルートも考えてみてくんさい。あれですよ、高速、あの上につくるぎよかとですよ。今、ほら軽量鉄骨でできんわけじゃなかですもんね。そいぎ、用地買収要らんですもんね、用地買収が。そいぎ、車の上ば見ぎんた、新幹線の走りようわけですよ。用地買収が要らない。それで、これがもし技術的にちょっと厳しいねということであれば、側道部分で結構、高速の場合は結構広目にとっちゃあですもんね。それで、大和のインターの部分例えば新駅にして、佐賀新駅にして、ずっと多久まで来て、もともこの話、井本さんのときあっていたわけ。それで、多久からぐるりと、また、黒尾のほうば、山口良広さんの家ば通って、武雄のところに来てすれば、これフル規格というのはあながち夢物語じゃないと僕は思っていますし、国民全体の便益、利益を考えれば、もうフル規格が一番です。今のフリーゲージは新幹線じゃありません。あれは鈍幹線です。だけど、これはでも100%だめかと言ったら、それはそうじゃないです。これは一緒なんですけど、だけど、今はそういうことを言える状況にありますので、もう一回、再度言いますけれども、県の負担がふえないことを前提に、私はこれがもしそれが担保できれば、それは取り組むべきだというふうに思っていますので、今度の衆議院の争点の一つになると思うですよ、衆議院の争点の。僕はこういうことを言う国会議員を応援しようと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

やっぱり私たちがその声ば上げていかんといかんかなと思います。もうフル規格でというようなところを話を上げていかんといかんのじゃないかなと思いますので、次に行きたいと思います。力強い答弁をいただきました。

続きまして、その新幹線かれこれが事業認可を受けたことによりまして、これはのぼりが

ついておりますけど、やはり一番最初に目につくのは、考えるのは、この武雄温泉の駅、南口の駅前広場です。この駅前広場、今ロータリー等々があります。こちらのほうが今後どのような形になっていくのか、答弁をお願いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

石橋まちづくり部長

○石橋まちづくり部長〔登壇〕

パネルでちょっと御紹介したいと思います。

（モニター使用）これが基本的な考え方の図でございまして、面積的に言いますと、従来の面積より約2倍程度にふえたということになるかと思えます。乗降客が3,300人というふうに、毎日ですけどね、推定をしております、一応ロータリーの左側を一般車両のエリア、右側ですかね、右側のほうをバス専用エリアということに考えております。一般車両エリアの中には送迎用の昇降場で4台ですね。一時駐車場13台、これは真ん中付近に設けております。そのうち身障者用2台を含んでおります。タクシーの乗降で2台、タクシーの待機場で4台というふうになっております。バスのエリアに行きますと、路線バスが2台、それから、観光バス6台、旅館等の送迎用が、島のところに送迎バスと書いてあるところに1台を配置しているところでございます。

なお、南側には道路、永松川良線という道路がありますが、これを駅前広場を取り囲むように整備をしたいということを考えてございまして、駅前通りに接続させるという計画でございまして。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

この図が示すような感じで、これはもうほぼ決定したパース図になるんですかね。はい、わかりました。

それでは、今、これに向けての取り組みというのは地元の住民の皆さんの説明会などやられているんですかね。そこでは地元、近隣住民の皆さんから御意見等はどうのような意見が出ているか、御紹介いただけますか。

○議長（杉原豊喜君）

石橋まちづくり部長

○石橋まちづくり部長〔登壇〕

説明会のときの要望といいますか、そういうことでは、できるだけ事業を早く進めてくれというのが1つでございまして。それから、派出所前の道路、現在のですね、あの道路が車両を禁止すること、乗り入れができなくなります。これにつきましては不便になるということの意見が出ております。

なお、広場への一般車両の通過を計画しなかったのは、やはり広場内交通の安全を確保するというので、広場内にできるだけ通過車両を入れたくないということでございます。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

私も同じような声をよくいただきます。特に高齢者の皆さんから多いんですけども、「私たちが早う生きとうちにそれを見たかけんが、早うしてくんしゃい、早うしてくんしゃい」って、その声ばかりいただきます。ただ、とある大先輩から御指導いただいたのが、こういうことを考えるときは、とにかく武雄の将来像をどがんおまえたちは考えようかと。やっぱり夢の持てる武雄ばつくっていかんばいかんぞと、それをよくよく考えてから計画をつくりなさいというような御指導をいただいたのでお伝えしておきたいと思います。

続きまして、区画整理に入りたいと思います。

松原通りですね、ここは。武雄温泉駅をおりて、武雄のシンボルである楼門へ向かうメインストリートになるんじゃないかと思います。今、もうこのような感じで大分開けてまいりました。今の松原通りの進捗状況を確認したいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

石橋まちづくり部長

○石橋まちづくり部長〔登壇〕

区画整理の進捗状況でございますが、23年度末の進捗率といたしましては72%となっております。今年度から松原通りの道路を今工事をやっております。これが今年度、駅前付近までは完成しますが、松原交差点のところ、これが県事業との、後の事業との兼ね合いがございまして、ちょっと時間がかかるかなというふうに考えておまして、その縦道と横道ですね、区画整理外のところですけど、それが若干時間がかかるかなということで、平成27年を目途にしておるところでございます。

それから、永松地区につきましては、今年度は、今、駅交通広場のり面工事を行っております。移転が完了している部分の工事を進めたいというふうに考えております。

それから、八並、小楠地区でございますが、引き続き家屋移転等を行って、道路や宅造を進んでいくということになろうかと思っております。

なお、今後の問題でございますが、事業認可では27年度までということになっておりましたが、今、一昨年から国費が非常に落ち込みが激しくて、事業費を確保できない状況にあります。したがって、これ2年、あるいは3年程度おくれざるを得ないかなという現在の状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

また、おくれるところの話をいただいて、なかなか。ただ、国費が確保できない。それはちょっとね、どがんかせんばいかんですよ、どうにか。

〔市長「どがんかせんばいかん」〕（「民主党ばかえんば」と呼ぶ者あり）

そこんたいは、やじでお任せします。（笑い声）

そしたら、その松原通りは、ここは開発エリア、ここの部分ですよ、開発エリア、今。ファミリーマートさんが今建っている、その西側が開発エリアになってくるんじゃないかなと思うんですけど、ここら辺は今後どうなっていくのか。当然、以前、私がこの区画整理で質問したときは、どこやったですかね、海外のどこかの町並みを参考にして開発を勉強していきたい、研究していきたいという話がありました。ここの開発エリアとさらに今度はその先のさぎの森広場ですね、この活用、ここも、恐らく最終的には開発エリアになるんじゃないか。当初は区画整理の代替地というようになっていたと思いますけど、ここも最終的にはその開発エリアの一つになってくるのかなと思っていますけど、ここら辺の何か商業者が優先とかというような、そういった何か縛りみたいな、そういったのは何かあるんですかね。今後の見通しも含めて。

○議長（杉原豊喜君）

石橋まちづくり部長

○石橋まちづくり部長〔登壇〕

開発エリア及びさぎの森については武雄市の土地でございまして、一応そこにつきましては都市計画事業等の代替地ということで、まちづくりに資するものということでございますので、商業を誘致するというを前提と考えておるところでございます。

なお、このエリアにつきましては、市長さんから樹木をばかばか植えてくれということでございますので、そういう条件がつこうかなというふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

樹木をばんばん、樹木をばんばん、緑いっぱいのもちにとというようなことですね。わかりました。

それでは、このさぎの森公園を今度さらに行くと、武雄の、先ほど紹介しましたシンボルの一つであります武雄温泉楼門ですね。これ楼門を撮った絵です。すみません、私が撮った日があんまり天気がようなくて、これ新館ですね。これ辰野金吾さんの設計による国の重要文化財の一つであります武雄温泉楼門ですね。ちょっと外観、見た目的に大分塗装が傷んでいるなどというのは、これ、スケッチなんかをする場合はこれでも味が出ていいのかなと思いますけど、どうしてもやっぱり観光客、また、武雄の市民の皆さんが見る場合は、やっぱり

これはきれいなほうがいいんじゃないかなというのがありますけれども、これについて答弁をお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

白濱教育部理事

○白濱教育部理事〔登壇〕

武雄温泉楼門の色塗りかえでございますけれども、塗りかえを含めた保存修理につきましては、県を通じて文化庁から今月中に申請書を提出してくれというような急な連絡がっております。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

県を通じて急に何て。申請を、その具体的な中身を出せということですか。

〔市長「言うてよかくさん」〕

ぜひそこまで見えているものがあれば、ぜひ答弁をお願いします。

〔市長「もう全部言いんしゃい」〕

○議長（杉原豊喜君）

白濱教育部理事

○白濱教育部理事〔登壇〕

これまで武雄温泉楼門の保存修理については、申請を出しておりましたけど、今年度、24年度の後半と来年度の2カ年にわたって実施するというので、そういう見込みがあるということで、もう申請書を直ちに出してくれということで、期間的には7カ月以上かかるから、2カ年ということでの連絡でございました。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

ちょっと時間がもう全然。楼門をぜひきれいに生まれ変わらせてやっていただきたいなと思います。

それでは、ちょっとこれ飛ばされんかな。ちょっと一旦これ消してもろうてよかですか、ちよろっと消してもろうてよかですか。ぱっぱっぱっと先に行きます。

最後——最後じゃないですけど、お願いします。これですね、まちづくりの庁舎建設に絡んでちょっと1点だけ。

すみません、これ合併特例債。私が認識している限りでは、新市建設計画に基づいて決められているのは、金額的なものがあるかと思えます。これ、総額173億円のうちのその分の半分に当たる86.4億円を使用する方針だったんじゃないかなと思っておりますけれども、今

まで庁舎建設の話とか、いろいろ先ほどのスポーツ施設の話も当然ありますけど、私は合併特例債をもとで話をしていたところだったんですけど、ある新聞、ある方から言われたんですよ。「おまえ合併特例債の何のって言いようけど、なかってやっか」って。それ「何で」と言うたぎ、ここに書きちゃあわけですよ。

〔19番「それ、うそっぱち新聞やん」〕

いやいや2つ。どの新聞かとはあれですよ。調べてびっくり、活用枠残っていなかった。国が特例債の増額変更を認めるかどうかが大問題で、その見通しがないと、結論が変わってしまうのではないかと思うというふうな記載があります。

私の認識は、新市建設計画でこれを決めている武雄市の話であって、それを増額するのへったくれも、国がどうこうじゃなくて、武雄市で、もちろん県とか国の協議の場というのは当然必要になってくるかと思えますよ。思いますが、あくまでも私たちの武雄市の話じゃなかとですかね。そこをちょっと勉強不足なので、そこはどうなのか、はっきり確認したいと思えます。

○議長（杉原豊喜君）

宮下つながる部長

○宮下つながる部長〔登壇〕

合併特例債の枠につきましては173億円ございます。新市建設計画の中でその半分の86.5億円ということで当初決めてありました。当市の議会の議決を経れば、増額できるということであります。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

私が言いたいことは、最後これです。よろしく申し上げます。ありがとうございました。

○議長（杉原豊喜君）

以上で3番上田議員の質問を終了させていただきます。